村上記念病院　広報誌

ひだまり

Vol.39
H28年1月発行

今号の厳選写真

新年明けましておめでとうございます。

理念

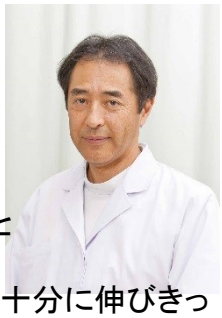
病める人の立場に立った、患者さん中心の医療を提供します
地域の期待に応えられるより良い保健、医療、介護及び福祉サービスの提供に努めます

方針

1．医療の質の向上により疾病の早期発見と治療に努めます
2．個人の権利を尊重し、患者さんと共に考える医療の実践に努めます
3．医療に関する安全管理を徹底し、さらなる進歩に努めます
4．保健・医療・介護・福祉サービスの連携強化に努めます
5．地域社会とのさらなる連携強化に努めます
6．健全な病院経営に努めます

村上記念病院
MURAKAMI MEMORIAL HOSPITAL

新年のご挨拶　　院長　村上　匡人



2016年は暖かく穏やかで、真冬とは思えない年明けとなりました。
2015年は、世界中で異常気象やテロの嵐があり暗い話題が多かった一方、ラグビーワールドカップの歴史的勝利や、ノーベル賞では昨年に続き日本人が受賞し明るい話題を提供してくれました。今年は申年ですが「申」を「さる」と読むのはただわかりやすくしただけなどというのは年賀状のシーズン独特の話題です。この十二支の9番目の「申」は「伸ばす」という意味があり「草木が十分に伸びきった時期で、実が成熟して香りと味がそなわり固く殻におおわれていく時期」だそうですが、いわゆる「さる」は、「災いが去る」「病が去る」などいいことや幸せがやってくるという意味から縁起がよいとされています。

そんないい年に期待はしつつも、医療に対する情勢は厳しい状況が続いているのも事実です。一方今年は開院70周年という節目の年でもあり、地域の皆様に支えられながら継続した医療サービスの提供ができたことを感謝しながら「実が成熟」すべくなお一層努力していかなければなりません。

今年は回復期リハ病棟の立ち上げや地域包括ケア病棟への移行など、時代のニーズに合わせた病棟改変を行っていきます。皆様から病などの災いが「さる」よう今年もよい政策や医療情勢の変化にも対応しながら、地域医療を守り医療サービスの向上をめざし職員一丸となって頑張る所存です。今年もよろしくお願いします。

永年勤続表彰者

25年：斉藤純子・藤田ひろ子
15年：村上徳夫・矢野早苗・近藤明美・豊田敬子
清家美和・玉井恵美・ 松本みゆき・西坂由香子
10年：福井恭平・山本和幸・矢野智一・越智ちなつ
真鍋涼子・大堂貴博・ 三宅こずえ・津島幸江
工藤法子　　以上19名　（敬称略）

◇ 25年表彰受賞者に一言お願いしました。 ◇

看護師　斉藤　純子

私は今年勤続25年の表彰を受けることが出来ました。この永年勤続表彰の記事の依頼を受けた時から25年を振り返り、どんなテーマで書こうかと考えていました。

そして思い浮かんだことは、『感謝』です。私の周りのすべての人々にありがとうの『感謝』の言葉を伝えたいという気持ちです。はじめて患者さんに注射をした時、緊張でドキドキしていましたが、その患者さんは新人の私に、「何回失敗してもいいよ」とやさしい言葉をかけて緊張している私をリラックスさせてくれました。体調が悪くなった時、嫌な顔ひとつせず勤務の交代をしてくれた病棟のみんな。 子どもの離乳食の時期やトイレトレーニングまでしてくれた託児所の先生。夜勤や残業で家に帰るのが遅くなっても自分でご飯を作って食べてくれてる主人や子ども達。帰りが遅くなる度保育園にお迎えに行ってくれた両親。楽しい話で笑わせてくれる友人たち。みんなのやさしさに甘えさせてもらいこれまで仕事を続けてこられたのだなあと今更ながら実感しています。
本当にありがとうございました。

これからも『感謝』の気持ちを忘れず、村上記念病院に入院してよかったと思っていただけるようなやさしさと強さを持った看護師として働いていけたらなあと思っています。

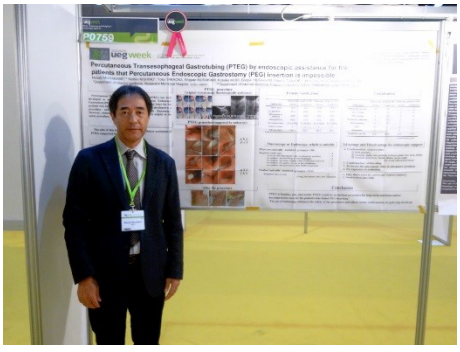
看護師　藤田　ひろ子

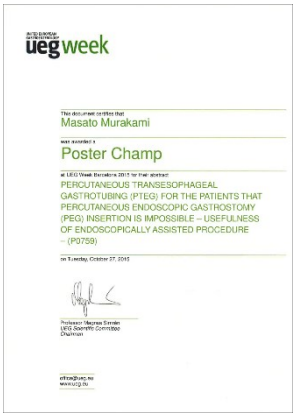
このたびは、勤続25年の表彰をいただき、ありがとうございました。勤続25年と聞くと、改めて時間の流れの速さに驚いています。振り返り思うのは、「私は人に恵まれている」ということです。様々な場面でいろいろな方の手をお借りし、今の私があると思います。これも、村上記念病院の色でしょうか。人にやさしく、己に厳しく。これからも笑顔を絶やさず仕事をしていきたいと思います。

学会報告　in バルセロナ

院長　村上匡人

平成27年10月24日から28日にかけてスペインのバルセロナで開催されたヨーロッパ消化器病週間（UEGW2015)で発表の機会を得て参加してきました。西条からバルセロナまでは、伊予西条駅から電車に乗り、松山から成田に飛び、パリ経由でホテルに着くまで25時間かかりました。ポスターセッションへの応募をしたのですが、抄録での応募の段階で、採用だけでなく優秀ポスターとしてプレゼンテーションの機会を得てしまいました。いつもはポスターの前で興味を示した人と少しやり取りをするフリーディスカッションだけでしたが、今回は画面に映し出されたポスターを説明する必要があり、緊張しましたがたいした質問もなく終わりました。ただ、帰りの飛行機の時間がせまっていて、発表の順番を一番にしてもらったので、自分の発表が終わると、そのセッションが終わるのを待たず、すぐ会場を後にしました。空港で飛行機に乗る直前に、そのセッションで「ポスターチャンプ」になったとの連絡をメールでうけました。当院で以前から行っている手技で、今までも何度か発表し、優秀演題に選ばれたりもしましたが、今回さらに高い評価を得ることができました。ただ、帰りは成田から伊丹まで飛んで、そこから電車に乗り、27時間かかりました。現地滞在はわずか61時間で、往復の移動に52時間かかりましたが、それでも29日の外来には間に合うことができました。




ueg week

This document certifies that
Masato Murakami
was awarded a
Poster Champ
at UEG Week Barcelona 2015 for their abstract
PERCUTANEOUS TRANSESOPHAGEAL GASTROTUBING (PTEG) FOR THE PATIENTS THAT PERCUTANEOUS ENDOSCOPIC GASTROSTOMY (PEG) INSERTION IS IMPOSSIBLE – USEFULNESS OF ENDOSCOPICALLY ASSISTED PROCEDURE – (P0759)
on Tuesday, October 27, 2015

院内ボランティアを募集しています

当院では、地域に開かれた病院運営を行うことを目的に一人一人の患者さんを大切に思い健康回復をともに願って下さり、無償の善意で定期的に活動していただける院内ボランティアを募集しています。ボランティアの方には、年１回の無料健診を受けていただいております。また、単発的な活動をしていただける方も歓迎いたします。
ご連絡は、右記までお願いします。

《お問合せ先・お申し込み先》
村上記念病院・地域医療連携室
ＴＥＬ・0897-56-2300（代表）
0897-56-2281（直通）

「第9回村上記念病院寄席」

年末恒例の年忘れ落語会が開催されました。今年は、“桂 三若” “笑福亭 飛梅”の二人会でした。三若さんは今回で3回目でしたが、やはりとても迫力のある笑いどころ満載の寄席でした。飛梅さんは初めてでしたので、楽しみにしていました。お二人とも会場全体を巻き込んでの噺で、来場された方々は笑顔に包まれていました。今年を笑いで締めくくることができたと思います。最後にはサイン色紙の抽選会もあり、自分の番号が読み上げられるのを、今か今かと心待ちにしていました。来る年も楽しく笑顔で過ごせることを期待しています。

さて、次は ‘申年’ 申の語源は「草木が伸びきり、果実が成熟して固くなっていく状態を表す」と言われています。この寄席で得た【笑い】を糧として、人としてもっと成長していけたらいいなと思う今日この頃です。

忘年会　in　ベルフォーレ西条

今年初めてベルフォーレ西条さんにお世話になりました。恒例の各部署からのアトラクションに、会場がひとつになって盛り上がりました。今年は少し早目の忘年会でしたが、一年間お疲れ様でした。また来年も職員一丸となって頑張っていきましょう！

院長挨拶

アトラクションの
一部です！

きゃりーぱみゅぱみゅ♥

NISHINO&KUROCHAN

ヨッ！タカコさん！

省吾先生挨拶

H27年度　防災訓練

災害対策委員　臨床工学技士　清水和裕

平成27年11月22日に当院、朝日町、下町南自治会合同の防災訓練が行われました。
今年は例年の訓練とは違い洪水災害を想定したものでした。 洪水といえば、 平成27年9月18日に起きた「平成27年9月関東・東北豪雨」です。 この災害は海外でも大きく報じられていました。
過去の災害から学び、対策を行っていても、中々実行して行動することは難しく、 訓練することの重要性を感じました。

防災訓練の前に、朝日町・下町南自治会の方々へ応急処置・防災食の作り方のレクチャーが行われました。 日常的に身の周りにある物を活用した応急処置法を、周りの方と確認し合いながら取り組んだり、少量の水・お湯を使った災害非常食を作り、参加された方々と美味しく頂いたりしました。

今回は、来春から始まる回復期リハビリ病棟を想定しての訓練で、患者さんの病態などを考慮しつつ迅速に避難を行いました。避難させる患者さんの人数も多く、簡易担架を使用しての搬送も大変で、しかも、限られたルートからの避難だったため、立ち往生するなど色々問題点もあり、全体への声掛けや、落ち着いて行動することの重要性を感じました。

消防署の梯子車による屋上からの避難も行われました。屋上から地上を往復する姿は、スムーズではあるものの、怖さもあってか地上に着いた時は、「救助された」という安心感を感じました。 防災訓練を終えて、西条消防隊の方から平成16年の台風21号の話を聞きました。
水資源の豊かなこの地だからこそ、水害の怖さを忘れず、対策・訓練を怠らず防災に対する意識を持つ大切さを再確認しました。

Facebook始めました！

村上記念病院のホームページに右のようなリンクがあります。ぜひ、クリックしてみてください。病院や関連施設の行事、出来事、求人情報など満載です。タイムリーな情報を掲載できるように担当者が頑張っておりますので、見に来てくださいね。

クリスマス会

療養病棟にサンタさんがやってきました。ボランティアさんの参加で歌やギターの弾き語りもあり楽しい時間を過ごせました。

水都苑に葵コーラスさんが来てくれました！

葵コーラスグループが12月15日、水都苑へ慰問に来てくださいました。

その素晴らしい歌声にデイ・入所の利用者さんも楽しく盛り上がり、感動して涙する人もいました。

本当に元気をいただきありがとうございました。

ちなみに、葵コーラスの指揮者 秋川暢宏 氏は「千の風になって」の テノール歌手 秋川雅史 氏 のお父上で、最後に「千の風になって」の独唱も披露していただきました。

夏だけでなく、冬も“脱水”に注意が必要です

夏は特に“脱水”という言葉をよく聞くため気をつけている方は多いと思いますが、冬も脱水状態になりやすいことをご存知でしょうか？

季節に関係なく、皮膚や呼気から毎日約1リットルもの水分が失われています。特に冬は暖房により空気が乾燥しているため、気がつかないうちに脱水状態になっていることがあります。

今一度、日頃の水分摂取について見直してみましょう。

★1日の水分出納バランス（成人の場合）

出る水：2.2L～2.8L	入る水：2.2L～2.8L
不感蒸泄 （皮膚や呼気からの蒸発） 1L	**食事** 1L **食事以外の飲み物** 1L～1.5L
便 200～300ml **尿** 1L～1.5L	**代謝水** （体内の代謝でつくられる水） 200～300ml

★高齢者が脱水状態を招きやすい要因として、

- 熱、汗、嘔吐、下痢などにより、水分を失うことが増える
- 腎機能の低下により、トイレに行く回数が増える
- 服薬（利尿剤など）の影響
- 加齢に伴い体内の水分や水分を蓄える筋肉、代謝水が減る
- のどの渇きを感じにくくなったり、頻繁にトイレに行くことを避け、水分摂取量が減る
- 食事の量が減る

などが挙げられ、これらにより水分出納バランスが崩れ、脱水状態を招きます

★1日の水分摂取目標量

食事（間食を含む）＋食事以外の飲み物で、2L～2.5Lが必要となります（成人の場合）。食事からは約1Lの水分摂取ができます。ですので、1日1L以上は食事以外の飲み物から摂取しなければなりません。一度に摂取することは、心臓や腎臓の負担となる可能性があるため、こまめな水分摂取をこころがけましょう。

例：
朝食に湯のみ1杯 200ml　昼食に湯のみ1杯 200ml　夕食に湯のみ1杯 200ml

起床時にコップ1杯 100ml　間食（10時・15時）にコップ1杯ずつ 200mlずつ　お風呂あがりにコップ1杯 100ml

※病態により、水分制限の必要な場合は、医師や管理栄養士にご相談ください。

栄養課